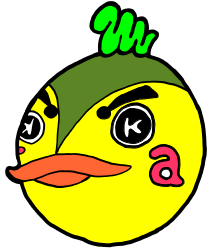


学校だより

かもいのなかま 一人じゃないよ!



夢に近づけ 今、鴨居がいいカモ!
横浜市立鴨居小学校

電話 045(931)2062

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamoi/>

ツバメが渡ってくるまち

校長 立花 充

※このお話は、PTA広報誌の7月号に載せていただいたお話の「その後」です。発行日の関係で、順序が逆になってしまいますが、ご容赦ください。

6月18日、鴨居駅の階段（学校側）の途中で作られたツバメの巣が空になっていました。ヒナたちが巣立ったようです。

ここ数日、帰る時に階段を上り、巣が見えるところで振り返ると、近くの人たちも皆私と同じように振り返って、巣の様子を見えています。マスク越しでもその顔は皆、とても穏やかに見えます。今はヒナたちがいなくなりましたが、つい巣を振り返ってしまうのは私だけではないようです。

少しさびしい気持ちでいましたが、その後も駅の周りにはツバメが飛び交っています。階段の巣ばかり気になって気づかなかったのですが、ほかにも2か所、巣がありました。改札階のエレベーターの近く、上方にある箱の上。そして、空になった巣の階段の下にあるコンビニエンスストアの庇の上。どちらも以前からあったのでしょうか。私が気づいたときは、いずれもヒナが顔をだしていました。この子たちはいつごろ巣立つのでしょうか。また楽しみができました。

そんなある日の朝、コンビニエンスストアの前で、若い男性が両手で何かを拾い上げています。ヒナが1羽、巣から落ちてしまったようです。駅員さんをお願いしようと戻りかけると、男性は一緒にいた女性に荷物を預け、ジャンプ!! 見事、巣の横にヒナを戻してくれました。

可愛らしいヒナの様子に心癒されることはもちろんですが、多くのツバメが毎年渡ってくるまち。とても素敵だと思います。人がたくさん往来する駅に巣をつくることは、決して偶然ではなく、そこがツバメにとって安心で安全な場所だからです。鴨居のまちの人々の、あたたかさ、やさしさがあるとのことだと思います。ヒナを助けた人、ヒナを見守る人、ついつい巣を振り返る多くの人たちの姿から、鴨居のまちのあたたかさを感じます。

このあたたかさ、やさしさを引き継ぐのは、鴨居の子どもたち。今は鴨居のまちのあたたかさ、やさしさに包まれて、巣立ちに向けて力を蓄え、少しずつ、周りの人やかかわるものたちをあたたかく、やさしく包める人に成長していったほしいと思います。